

## 小松のてんとう虫天文同好会

## 会名が小惑星名に

天体観測仲間で作る小松市の「てんとう虫天文同好会」の会名にちなみ、新たに発見された太陽系の小惑星が「Tentoumushi」（テントウムシ）と命名された。同会代表の大杉忠夫さん（66）＝小松市吉竹町＝と親交がある天文家の提案を受けて、国際天文学連合が12日付で認めた。大杉さんは今回の命名を機に、52年続く同好会の活動を、再び活発化させたいと意気込んだ。

「Tentoumushi」は1992（平成4）年11月17日に、札幌市の渡

辺和郎さん（61）と北海道美幌町の円館金さん（56）が共同で発見した。地球から約7億5千万キロ離れた位置にあり、直径約15キロのやわぶれた楕円形で、太陽の周

①「Tentoumushi」と命名した小惑星を紹介する大杉さん（右）＝小松市吉竹町

②左会員が時間差で2016年1月に撮影した小惑星「Tentoumushi」（赤枠内）



## 北海道の天文家が発見 命名を提案

囲を、5年半以上かけて一周している。

渡辺さんが、同好会発足から半世紀が過ぎたのを記念し、会の名前を命名してはどうかと大杉代表に提案して、2015年5月に同連合へ申請した。

同好会は、1965年に高校生6人が中心となり、羽咋市で発足した。広い宇宙に思いをはせて星を探す自分たちの姿を、天を見詰める小さな虫に例え、自分たちのグループを「てんとう虫」と名付けた。現在は小松市や能美市を中心に、県内外の15人が所属する。70年代には手製の季刊誌を発行するなど精力的に活動していたが、会員の進学や就職などを機に、活動が停滞気味となった。

大杉代表は「Tentoumushi」の命名認定証が届いた後で、渡辺さんや、かつて所属したメンバーも招いて同窓会を開催しようと呼び掛け始めた。命名については「感慨深い。星の姿は想像することしかできないからこそ、終わりのない魅力がある」と語った。